

第17回宮城県支部学術集会

学術集会会長：日本医療マネジメント学会宮城県支部
幹事 中村起也

2025年10月25日に日本医療マネジメント学会宮城県支部第17回学術集会を現地・オンデマンドにて開催しました。今学術集会のテーマは、『地域医療・介護・福祉連携の現実と今後～我々の業・技・知で、ひとのいのちを大切にできるか～』としました。特別講演は、北海道大学大学院医学研究院社会医学系部門社会医学分野医療政策評価学教室教授 古元重和先生より、『これからの医療・介護・福祉連携のあり方～地域で事業を継続するために必要なこと～』と題して御講演賜りました。今後各医療機関は、それぞれ自院の地域における立ち位置・役割を明確にすることが求められること、また現在の立ち位置の確認をすることを求められました。病院運営が困難な時代になり、古元先生からの御教示いただいた事をしっかり実践していきたいと思えます。また教育講演では、『PFMと病院経営』と題して、北里大学大学院医療系研究科 臨床医科学群精神科学 下村 裕見子先生より御講演いただきました。PFMにあまり馴染みのない参加者から、多数の質問も寄せられました。病院運営および経営に役立つお話をいただきました。一般演題は8演題の御発表をいただき、今まで積み重ねてきた知見を活かし活発な討論、情報交換の場となったことと思えます。また、宮城県支部学術集会では多分初めて、本会とKDDI・IIJとの共催で『医療DX』について、ランチョンセミナーを開催しました。114名の御参加をいただきました。開催にあたり、支部役員会の先生方をはじめ、関係者各位の御尽力・御高配いただいたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第19回愛知県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構名古屋医療センター院長
小寺泰弘

2025年11月29日(土)に名古屋市内のデザインホールにて「第19回愛知県支部学術集会」を開催し、161名のご参加をいただきました。

今回のテーマは、「質が担保されたサステナブルな医療を求めて ～QMSで創る私たちの医療～」でした。院内のルールを統一・管理し、全員で共有することでインシデントの減少やチーム全体の医療の質向上につなげる“品質マネジメントシステム(QMS)”を取り上げました。テーマに関連し、特別講演では

国立病院機構仙台医療センター総合品質管理推進部長(外科) 手島 伸先生より、「全病院で取り組む医療の質改善 -ISO9001からTQM実現を目指して-」と題したご講演をいただきました。

また、一般演題には16題のご応募をいただき、いずれの演題においても活発なディスカッションが行われ、大変有意義な会となりました。本集会の開催にあたり、多大なご支援とご協力を賜りました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

第13回沖縄県支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人友愛会理事長
比嘉国基

2026年1月10日、社会医療法人友愛会の友愛医療センターにて「第13回日本医療マネジメント学会沖縄県支部学術集会」が開催されました。本学術集会は「目の前にある未来への備え ～沖縄の高齢者救急医療と地域の挑戦～」をテーマに掲げ、学術集会会長である比嘉国基のもとで実施され、計104名の皆様にご参加いただきました。

沖縄県において急速に進む高齢化と、それに伴う救急医療の課題解決に向けて、当日は多職種を交えた極めて実践的な議論が行われました。高度急性期医療から回復期リハビリテーション、さらには在宅医療や介護サービスに至るまでのシームレスな地域連携のあり方について、マネジメントの観点から活発な意見交換がされました。

皆様の熱心なご参加により、地域の医療・介護体制が直面する課題への対応策を共有する大変有意義な場となりました。当支部では今後も、質の高い地域医療マネジメントの実現と連携強化を目指して活動してまいります。

第13回群馬県支部学術集会

学術集会会長：群馬県済生会前橋病院院長
細内康男

2026年1月25日(日)、群馬県公社総合ビルにて日本医療マネジメント学会第13回群馬県支部学術集会を開催しました。テーマは「新地域医療構想、病院機能及び医療介護連携のあり方～前方連携と後方連携～」とし、基調講演では済生会熊本病院の田崎年晃事務長から前方連携からの医療介護連携の実践について、特別講演では厚生労働省大臣官房参事官(医療提供体制改革等担当)の津曲共和先生から新地域医療構想における各病院の役割等の最新情報